

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

本校は教育目標に「ねばり強い子どもを育てる」を掲げ、「個性が輝く学校」を学校経営の重点に教育活動を進めている。児童は規範意識が高く、学習規律も概ね確立されている。

本校の特色の一つとして、たて割りグループでのふれあい活動を年間通して実施している。田辺大根の栽培をはじめ児童会活動を中心に異学年グループでの協力・交流の機会が多い。それにより自己有用感や自己肯定感、さらには他者理解の気持ちが育っている。しかし、昨年度までの新型コロナウイルス感染症の感染防止にかかる取り組みの中で、学校生活に閉塞感が生まれており、少なからず子どもたちの意識にも影響していると考えられる。自己肯定感を示す「自分にはよいところがある」という質問には肯定的な回答が多くを占めるが、昨年度では一昨年度より否定的な回答が若干増加し、15.3%であった。継続して自尊感情を高める取り組みをしていく必要がある。また、「学校へ行くのが楽しい」という質問でも、昨年度では一昨年度より否定的な回答が増加し、14.7%であった。今後、学校行事や日々の授業等を工夫して行い、達成感や充実感を味わわせて、少しでも子どもたちが安心して過ごせるように取り組んでいく。

本校の児童は、全国学力・学習状況調査や経年調査の結果からみても学力面では全国平均、大阪市平均を数ポイント上回っている。本校の「専科指導・習熟度別少人数指導」等の取り組みが、学習習慣の定着割合の高さと相まって効果を上げていると考えられる。しかし、学習に対する理解が十分でない児童の割合は減少傾向にあるが固定化しており、学力の2極化は顕著になっている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組みを進めていく必要がある。体力面では、学年によって体力・運動能力にもばらつきがあるが、体育の授業だけでなく、ナガリンピック週間の定着、ナガリンピックカードの活用等、運動できる機会や意欲を高める取り組みを行ってきた結果、体力・運動能力の向上が見られる。今後も引き続き運動の日常化と意欲の向上に努めていく。

ICT の活用状況としては、大型モニター等を用いたデジタル教科書等の使用に関しては、すべての学級でほぼ毎日行っている。令和 2 年度には学校情報化優良校に認定され、各学級で日々 ICT の活用を行っている。令和 3 年度には、1 人 1 台学習者用端末が配備され、活用を進めているところである。しかしながら低学年に関しては、高学年ほど積極的な活用がなされておらず、取り組みの加速化が必要となっている。

また、個人差はあるが読書習慣がついていない児童が比較的多いと思われることが本校の課題の一つである。読書力は学習面全般にかかわってくるので、読書環境を整えたり、読書意欲を向上させる取り組みを工夫したりするなどして読書習慣を定着させる取り組みを引き続き進めていきたい。

教職員の働き方改革については、各種サポーターの活用や P T A や地域の協力を得ながら着実に進めている。しかしながら「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教職員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教職員は 6 割ほどとなっており、長時間労働が解消されているとは言い難いのが現状である。

#### 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおける「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおける「ナガリンピックに積極的に取り組めた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・令和7年度末の校内調査において、日々の学校活動の中で、学習者用端末を活用している割合を100%にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%にする。

#### 学校園の年度目標

- ・令和7年度の校内児童アンケートにおける「読書をすることが好き」に対して肯定的に回答する児童の割合を76.5%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。  
(令和3年度 実施なし)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- ・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度 85.8%)
- ・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度 84.7%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。(令和3年度 39.475%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(令和3年度 79.025%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。(令和3年度 実施なし)

#### 学校園の年度目標

- ・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「ナガリンピックに積極的に取り組めた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度 77.1%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・令和4年度末の校内調査において、日々の学校活動の中で、学習者用端末を活用している割合を70%にする。
- ・令和4年度末の校内調査において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を75%にする。

#### 学校園の年度目標

- ・令和4年度の校内児童アンケートにおける「読書をすることが好き」に対して肯定的に回答する児童の割合を76.5%以上にする。(令和3年度 76.3%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

部会や職員会議にて教職員間で児童理解を深め、年間を通してスクリーニングシートを活用して共通理解を図った。また、児童いじめアンケートを学期ごとに実施し、保護者いじめアンケートについては3学期に実施を行った。認知したいじめ事案については迅速に対応し解消を図ることができた。小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、78.4%とわずかに目標に届かなかったものの、校内児童アンケートにおける「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的に回答した児童の割合は97.3%と目標を大きく上回った。しかし、不登校児童に関しては増加傾向にあり、昨年度の8名から13名へと増加している。(昨年度8名のうち1名は改善) 学校内での対応はもちろんのこと、外部機関と積極的に連携し、改善に向けて取り組んでいる。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学力に関しては、研究教科である国語科を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け着実に取り組みを進めている。また、本校の専科指導や習熟度別少人数指導等の取り組みも行い、効果を上げている。その中で児童一人一人の状況に合わせた、個別最適な学びを推進していく必要がある。体力に関しては、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」の最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は65.0%で目標を大きく上回っており、運動に対する積極的な姿勢が伺える結果となった。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

ICT 機器の活用に関しては、一人一台学習者用端末（タブレット）を、全ての学級・学年で活用できる土台を作り上げることができた。今後、授業や家庭学習での活用の充実を目指す。働き方改革については、継続的な取り組みが必要である。読書活動については、コロナ禍で実施を見送っていた「お話会」を、低学年のみであるが行うことができた。コロナ禍で密にならないように人数を制限した状況ではあったが、学校図書館司書や図書ボランティアの方々の協力を得て、図書館開放を継続的に行えたことも成果である。

(様式2)

## 大阪市立長池小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度 実施なし)</li> <li>・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度 85.8%)</li> <li>・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度 84.7%)</li> </ul>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校「いじめ防止基本方針」に基づき、アンケート（児童（各学期1回）、保護者（年1回））調査し、いじめ事案に対し校内いじめ対策委員会を設置し組織的に対応する。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 (令和3年度実施なし)</li> </ul>	A
<p><b>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導部会（月1回）、職員会議（月1回）、児童理解研修会（年2回）を実施し児童に対する共通理解を深め、児童の規範意識を高める為に全職員で組織的に取り組む。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、昨年度の状態を維持し90%以上にする。(令和3年度 91.4%)</li> </ul>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画に沿って、避難訓練を年間5回実施する。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「災害や犯罪について他人事ではな</li> </ul>	A

く、自分にも起こりうる事として考え方でできた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度実施なし)

取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】

- ・自尊感情を高め、自分や友だちのがんばりやよさを認める。

指標

・様々な学習活動や行事の中で、自分や友だちのがんばりやよさを交流して認められるようにする。

・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度 85.8%)

・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和3年度 84.7%)

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学期ごとにいじめアンケートを実施。児童からの聞き取り、保護者からの連絡、相談に対して、組織的に素早く対応、指導してきた結果、年度末の校内児童アンケートにおける「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的に回答した児童の割合が97.3%と指標を大きく上回った。

② ・生活指導部会や職員会議、児童理解研修等を計画的に実施し、児童に対する共通理解を深め、児童の規範意識を高めるために取り組んできた。結果は89.7%と指標の数値を下回っているが、数値目標との差がわずか0.3%であることからおおむね達成できている。

③ ・年間指導計画に沿って、避難訓練を5回実施することができた。年度末の校内児童アンケートにおける「災害や犯罪について他人事ではなく、自分にも起こりうることとして考えて行動できた」の項目について、肯定的に回答した児童の割合が94.4%と指標を大きく上回った。

④ ・学校行事、学級活動や、終わりの会などの日々の活動の中で、友だちの良さやがんばりを発表する場を設定し、取り組んできた。それによって友だちのがんばりを認め、自分もがんばろうと励みになるとともに、自己肯定感が高まった。

ふれあいタイムでは、6年生がリーダーシップをとり、低学年の児童に優しく大根の世話を教えてながら、ふれあい活動に取り組めた。

スポーツデイの練習や本番で友だちを応援したり、励ましたりする姿が見られた。また、作品展や委員会活動、クラブ活動などの様々な学校生活の中で、互いに認め合う雰囲気が高まった。

その結果、年度末校内児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合はそれぞれ91.2%、88.1%と目標を大きく上回った。

次年度への改善点

①・③ 今年度同様の水準が維持できるように進めていく。

② 年度初めに、学校のきまりや規則を教職員全体で共通理解し、組織的に指導を進める必要がある。

④ 今年度同様の水準が維持できるように進めていく。

(様式 2)

## 大阪市立長池小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。（令和 3 年度 39.475%）</li> <li>・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。</li> <li>・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。（令和 3 年度 79.025%）</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 40%以上にする。（令和 3 年度 実施なし）</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度末の校内児童アンケートにおける「ナガリンピックに積極的に取り組めた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</li> </ul>	A
	(令和 3 年度 77.1%)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読解、記述、コミュニケーション等の多様な言語活動を各教科の学習過程に位置付ける。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。（令和 3 年度 39.475%）</li> </ul>	A
<p><b>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導法や学習形態を工夫し、基礎・基本の力を身に付け、学力向上を図る。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査の校内平均正答率の対全国比を、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学び合いや積極的なコミュニケーションの場を設定し、外国語（英語）に親しませる。</li> </ul>	A

<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(令和3年度 79.025%)</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナガリンピックカードを活用し、継続的に体力づくりに取り組めるようとする。</li> <li>・年間を通して月に1回ナガリンピック週間を設ける。</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度末の校内児童アンケートにおける「ナガリンピックに積極的に取り組めた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(令和3年度 77.1%)</p>	<b>A</b>
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<p>① 学級の友だち同士で会話をしたり対話をしたりすることは概ねできているが、高学年になるにつれて、自分の考えを深めたり広げたりすることに対して苦手だと思っている児童が多くなるので、それぞれが達成感を感じられるような取り組みを進めていく必要がある。 <u>指標 35%→結果 43.35%</u></p> <p>② 習熟度別少人数指導など学習形態を工夫しながら、学年の実態に応じた指導を行ったことで、基礎基本の力が定着してきたが、設定ポイントが高かったため達成率が低く、5年の算数のみ0.1ポイント向上した。</p> <p>③ モジュール・外国語活動・外国語科において、外国語(英語)に多くふれてきたので、知識やコミュニケーション能力などが身についた。<u>指標 70%→結果 78.575%</u></p> <p>④ 「ナガリンピックに積極的に取り組めた」の項目に肯定的に回答する児童の割合は、<u>指標 80%に対して 87.7%</u>であった。昨年度よりも向上した理由として、ナガリンピックの継続実施やカードを活用することによる達成感、体育科の学習においての十分身体を動かすような学習内容の工夫などが影響したのではないかと考えられる。</p>	
<b>次年度への改善点</b>	
<p>① 会話を難しく感じる児童の活動の幅を広げられるようにすることもふまえながら、今後も様々な学習過程において言語活動を設定していく。</p> <p>② 設定ポイントの見直しを行い、引き続き個に応じた指導を充実させ、指導方法の研鑽に努める。</p> <p>③ 外国語(英語)を使っていろいろな話したいという態度を育てるため、朝の会で外国語(英語)のスピーチをする機会を作るなど、外国語(英語)で話したり会話したりする機会を増やす。</p> <p>④ 実施回数が多いため、回数を見直す。また、実施内容についても冬場はマラソンや縄跳びなど運動量の多いものを取り入れるようにする。ナガリンピックカードについては、レイアウトを変更し、3学期分を1つにまとめた形のものを作成する。</p>	

(様式 2)

## 大阪市立長池小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <p><b>【ICTの活用に関する目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度末の校内調査において、日々の学校活動の中で、学習者用端末を活用している割合を、70%にする。</li> </ul> <p><b>【教職員の働き方改革に関する目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度末の校内調査において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を75%にする。</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の校内児童アンケートにおける「読書をすることが好き」に対して肯定的に回答する児童の割合を76.5%以上にする。(令和3年度 76.3%)</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階に応じ「こころの天気」や「スクールライフノート」の活用を推進する。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度末の校内調査において、日々の学校活動の中で、学習者用端末を活用している割合を、70%以上にする。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆとりの日（定時退勤）を月に1回以上設定実施する。また、学校閉庁日について夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は1日以上設定する。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度末の校内調査において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を75%にする。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書ノート等を活用しながら読書を進め、図書ボランティアや学校司書の協力のもと、学校図書館を整備して引き続き読書に親しむ環境づくりを行う。</li> <li>学級文庫の充実を図り、本にふれる機会を多くする。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の校内児童アンケートにおける「読書をすることが好き」に対して肯定的に回答する児童の割合を76.5%以上にする。(令和3年度 76.3%)</li> </ul>	B
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
① スクールライフノートの活用を、最終的に全学年で行うことができた。一人一台学習者	

用端末の使用率は、校内での月間活用率は100%、日別活用率は55%(いずれも12月末時点)であった。

②ゆとりの日や学校閉庁日を計画的に行うことができた。「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合は74.8%(12月末時点)と、ほぼ目標通りに達成することができた。しかし、数値には表れない休日に業務を行っている実態もあり、働き方改革の推進を継続して行う必要がある。

③図書開放や、読み聞かせ、図書ボランティアの方の活動、読書ノート、司書の方など、様々な取り組みを行うことができた。その結果、児童が本に触れる機会を増やすことができた。年度末の校内児童アンケートにおける「読書をすることが好き」に対して肯定的に回答する児童の割合は78.3%となった。

#### 次年度への改善点

- ①校内での体制作り等を行い、継続して取り組む必要がある。
- ②行事予定にゆとりの日の記載が漏れている月があったので、確実に保護者に周知できるようにする。また、業務内容のスリム化・学校行事の精選も併せて行っていく。
- ③高学年の読書ノートの利用を増やしていく取り組みが必要である。